

平成29年上尾市教育委員会10月定例会 会議録

- 1 日 時 平成29年10月19日(木曜日)
開会 午前10時30分
閉会 午後零時3分
- 2 場 所 上尾市役所 教育委員室
- 3 出席委員 教育長 池野和己
教育長職務代理者 細野宏道
委員 岡田栄一
委員 中野住衣
委員 大塚崇行
委員 内田みどり
- 4 出席職員 教育総務部長 保坂了
学校教育部長 今泉達也
教育総務部 図書館長 黒木美代子
教育総務部次長 関孝夫
学校教育部次長 石川孝之
教育総務部主席副参事兼図書館副館長 鈴木利男
学校教育部副参事 兼 学務課長 伊藤潔
学校教育部副参事 兼 指導課長 兼 教育センター所長 瀧沢葉子
学校教育部副参事 兼 中学校給食共同調理場所長 鈴木宏明
教育総務部 教育総務課長 荒井正美
教育総務部 生涯学習課長 小宮山克巳
教育総務部 図書館次長 島田栄一
教育総務部 スポーツ振興課長 長谷川浩二
学校教育部 学校保健課長 松澤義章
書記 教育総務課主幹 森泉洋二
教育総務課副主幹 井上建一
教育総務課主査 周曉蘭
教育総務課主任 烏丸美鈴
- 5 傍聴人 0人

6 日程及び審議結果

日程第1 開会の宣告

日程第2 平成29年9月定例会会議録の承認

日程第3 会議録署名委員の指名

日程第4 議案の審議

議案第49号 上尾市立幼稚園の利用者負担額に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

子ども・子育て支援法施行令の一部改正に伴い、ひとり親世帯及び非課税世帯に対する利用者負担額の軽減を拡充することについて審議し、全員一致にて原案のとおり決定しました。

〔議決第49号〕

日程第5 報告事項

報告事項1 平成29年上尾市議会9月定例会について

報告事項2 第59回上尾市民体育祭の結果について

報告事項3 第30回2017上尾シティマラソンの参加申込状況について

報告事項4 平成29年度 新人体育大会 兼 県民総合体育大会上尾市予選会の結果について

報告事項5 平成29年度第53回上尾市小学校陸上競技大会の結果について

報告事項6 上尾市「いじめ根絶」小学生の誓いについて

報告事項7 平成29年9月 上尾市小・中学校いじめに関する状況調査結果について

報告事項8 全国学力・学習状況調査に関する結果について

日程第6 今後の日程報告

日程第7 閉会の宣告

7 会議録

日程第1 開会の宣告

(池野和己 教育長) 皆様おはようございます。ただ今から、平成29年上尾市教育委員会10月定例会を開会いたします。本日は、傍聴の申出はございますか。

(荒井正美 教育総務課長) 申出人は、いらっしやいません。

(池野和己 教育長) 日程を進める前に、今月1日付で内田みどり委員さんが新たに教育委員会委員として任命されておりますので、就任のご挨拶をお願いしたいと存じます。内田委員さん、よろしく願いいたします。

(内田みどり 委員) おはようございます。内田みどりでございます。10月から教育委員を務めさせていただくことになりました。上尾市の子どもたちが明るく元気に学校生活が送れますよう皆様と協力しながら頑張りたいと思います。微力ではございますが、一生懸命頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。それでは、日程に従いまして、会議を進めてまいります。

日程第2 9月定例会会議録の承認について

(池野和己 教育長) 最初に、「日程第2 9月定例会会議録の承認について」でございます。9月定例会の会議録につきましては、すでにお配りをし、確認していただいておりますが、何か修正等がございましたらお伺いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

~委員全員から「なし」の声~

(池野和己 教育長) よろしいでしょうか。それでは、承認することにご異議ございませんか。

~委員全員から「異議なし」の声~

(池野和己 教育長) 異議ないものと認め、9月定例会の会議録は、大塚委員さんにご署名をいただきまして、会議録といたします。

日程第3 会議録署名委員の指名

(池野和己 教育長) 続きまして、「日程第3 本定例会の会議録署名委員の指名」を行います。会議録署名委員は、内田委員さんをお願いいたします。

(内田みどり 委員) はい。

日程第4 議案の審議

(池野和己 教育長) 続きまして「日程第4 議案の審議」でございます。本日予定されている議案は、1件でございます。「議案第49号 上尾市立幼稚園の利用者負担額に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」説明をお願いします。

(保坂了 教育総務部長) 議案第49号につきましては、荒井教育総務課長が説明申し上げます。

○議案第49号 上尾市立幼稚園の利用者負担額に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

(荒井正美 教育総務課長) 恐れ入ります。議案の1ページをお願いいたします。「議案第49号 上尾市立幼稚園の利用者負担額に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」でございます。提案理由でございますが、子ども・子育て支援法施行令の一部改正に伴い、ひとり親世帯及び非課税世帯に対する利用者負担額の軽減を拡充したいので、この案を提出するものでございます。恐れ入ります、議案資料の4ページ、別紙2をお開きください。こちらは、幼児教育の無償化の推進として平成29年度に実施される措置の資料でございます。この資料では、(案)となっておりますが、子ども・子育て支援法施行令という政令の改正により実現をしているものでございます。特定教育・保育施設である幼稚園や保育所の利用者負担額につきましては、市町村が、子ども・子育て支援法施行令の規定による限度額以内の金額を市町村民税所得割額の区分により定め、これを保護者の方に支払っていただいております。この度の、政令の改正では、幼稚園に関し、「市町村民税非課税世帯」と「ひとり親世帯等」に対する軽減措置の拡充が図られております。そして、これを上尾市立幼稚園の利用者負担額に反映させるため、この規則改正を行おうというものでございます。その改正内容でございますが、別紙2の大きな項目1をご覧ください。「1 市町村民税非課税世帯の第2子無償化」でございます。こちらは、いわゆる多子世帯に係る減免措置でございます。資料中の「1号認定子ども」というのは、幼稚園や認定こども園で教育を受ける子どもとなります。左側の点線四角枠内が改正前、右側の実線枠内が改正後の利用者負担額となります。市町村民税非課税世帯の第2子につきましては、政令改正により1,500円から0円と変更になりました。上尾市でも、これに合わせて0円に変更するものでございます。次に、大きな項目の「2 年収約360万円未満世帯の保護者負担軽減」の項目をご覧ください。一つ目の黒色のひし形の項目は、ひとり親等の利用者負担額の軽減措置を更に拡充するというものでございます。その下の一つ目の白丸の点線枠内と実線枠内は、市町村民税所得割課税額77,100円以下の世帯の利用者負担額が、政令改正により7,550円から3,000円に軽減になることを表しています。上尾市の場合、改正前のこの世帯区分の利用者負担額は3,750円であり、国の基準7,550円より低い金額となっていました。改正後の国の基準が3,000円となったため、国の基準に合わせて市の利用者負担額を3,000円に減額するものでございます。次にその下の二つめの黒色ひし形の項目、「その他の世帯の保護者負担の軽減」ですが、こちらは、改正前の第1子が16,100円、第2子が8,050円であったものが改正後は、それぞれ14,100円、7,050円になったものでございます。上尾市の場合、既に従前の市のこの金額が国の基準よりかなり低い金額で設定していたため、国の改正後の金額を上回らなかったため、今回改正せず、第1子7,500円、第2子3,750円のままとするものでございます。議案資料の5ページをご覧ください。別紙3につきましては、平成29年度上尾市立平方幼稚園利用者負担額表でございまして、各階層区分の国の基準、そして市の基準、一番右側の「利用者負担」と記載されている項目が市の基準でございますが、それぞれの改正前、改正後の利用者負担額の月額を表しているものでございます。ページをお戻りいただきまして、1ページをご覧ください。1

ページ以降は、今回の規則改正の新旧対照表となります。1ページの下線部分につきましては、この部分の改正内容は、国の政令改正によりまして、いわゆる、ふるさと納税のワンストップ特例控除を利用者負担額の算定に適用しない旨の規定を追加するものでございます。2ページ以降の下線部については、今申し上げました二つの軽減措置の規定改正と文言の整理を行ったものでございます。たいへん申し訳ありませんが、議案書の1ページをご覧ください。下の附則の部分でございます。施行期日は、公布の日からとします。附則第2項の経過措置につきましては、軽減を拡充した利用者負担額を今年度4月分から適用するものでございます。説明は以上でございます。

(池野和己 教育長) それでは、議案第49号について説明をいただきました。質疑、意見等がございましたらお願いしたいと思います。

(大塚崇行 委員) 利用者の負担軽減ということで、たいへんよいことでありますので、大いに行っていたきたいと思うところでありますが、先日14日に、平方幼稚園の運動会に行かさせていただきました。園児が今26名、そして、年長さんが19名、年中さんが7名ということで、たいへん少ない人数で幼稚園経営という立場でいくと、何かあって行かないのではないのかと不安に思うところでもあります。今、少子化ということが叫ばれていますので、各民間の幼稚園もいろいろ経営努力しているところ、園児を集めることを努力されていると思うのですが、料金を下げて利用しやすくするというのも一つの方策ということもありますが、根本的な見直しをしていかなければいけないのかと少し思ったところでありました。明日から幼稚園の説明会が行われるということで、11月1日から受付が始まるということをお伺いしていますが、市として平方幼稚園の来年度の入園見込みといえますか、どのくらい来るだろうということを見込んでいる数字というのは、把握されていますか。

(荒井正美 教育総務課長) 来年度の入園児につきましては、おそらく考えられるのは、平方幼稚園の未就園児の教室でいちごクラブというものを月1回やっておりまして、そちらから年少に上がってくる子がいるであろうということで推測しておりますが、だいたい多くて10人程度、少ないと5人程度になるかと思っております。

(大塚崇行 委員) 実は、運動会の時に10人くらいになるのではないかと伺ったものですから、どういうふうに把握されているのかと質問させていただきました。

(細野宏道 教育長職務代理者) 今の質問ですと、年長さんは小学校に入学されますので、平方幼稚園は7プラス5になる可能性があるということでしょうか。

(荒井正美 教育総務課長) 7プラス5、あるいは6プラス5の11くらいになってしまうということで、集団での適正規模による幼児教育ができなくなるような状況になっております。幼児人口減少の影響をもちに受けていることと、3年保育を実施していない中で、民間では3年保育をしても充足率が今、7割程度ですので、幼児教育に対するニーズが少なくなってきたといことは感じているところです。そして、市でも行革の視点で平方幼稚園の在り方を抜本的に見直しなさいというような指針も出ておりまして、それに則って教育委員会の中でも内部の関係機関で協議をしております。また、保護者や地区の住民の皆様にも現状と課題を説明する会を何度か開きながら意見をいただいて、そのあり方を決めている段階ですので、タイミングをみて教育委員の皆様にも状況を説明してご意見を伺いたいと考えております。

(内田みどり 委員) 基準的に、人数は、何人までという運営の基準がありますか。

(荒井正美 教育総務課長) 定数は、100名となっております。

(内田みどり 委員) 最低限度の方はどうですか。

(荒井正美 教育総務課長) 最低限度は、決まっておりません。

(内田みどり 委員) それは、少人数でも、5人でもいらっしゃればよいということですか。

(荒井正美 教育総務課長) 5名とかですと、かなり少ない人数になってしまうと、子どもたちの中でいろいろ関わりながら人格形成をしていったりとか、切磋琢磨して能力を伸ばすというところがありますので、そこがその人数で適正なのかということについても、教育委員会の中で考えて、ある程度下限値ではありませんが、線引きというところでもっていく必要があると思います。

(内田みどり 委員) 線引きは、基本的にはないということですね。

(荒井正美 教育総務課長) ないです。その適正規模の在り方についても、協議をしたいと思っています。

(岡田栄一 委員) 後で市政に対する一般質問の中で平方幼稚園のことを聞こうと思っていましたが、保坂部長が、また、今課長がおっしゃったように、総合的な検討を進めてまいりたいと言っているのですが、要するに、幼稚園をなくすということが検討の一つなのですか。

(荒井正美 教育総務課長) 抜本的な見直しというところが、縮小、廃園を含めての検討も当然入ってくるものと考えております。考えられる視点というのは、唯一の公立幼稚園ですので、その役割、意義をどう考えるのかということと、行革の視点というのかなりこれからの時代は大切になってきます。また、園の施設もあと数年で耐用年数を迎えてしまいますので、その点を考えると、今、公共施設マネジメントの考えもあって、新規整備抑制で総量を縮減ということがある中で、ここも考えていかなければなりません。一番大きいのは、先ほども申し上げたとおり、幼少人口がかなり減少していった、特に平方地区等の郊外では、市の平均をさらに上回る減少速度で減っていくということです。受け皿的には、私立幼稚園も充足率が7割ですので、十分に足りております。それらを比較衡量して、どちらがよいかということを決めていきたいと思っています。

(岡田栄一 委員) 平方地区の方がおっしゃっていましたが、公立幼稚園というと、存在意義があると思います。その中でも地域の皆さんの意向とか、結局こういうところに来る人たちの、なぜ平方幼稚園を選んだかということを考える必要があると思います。積極的に人を集めるというか、平方幼稚園に行きたいという人は絶対にいますから、もう少し掘り下げていくような形で積極的にやって行かないといけないと思います。私立の幼稚園は個人で、公立の幼稚園はそういうモデル的なものをするという事務が必要だと思います。検討するには、少し遅かったのかと思います。来年は5人ということだと、時期的に遅かったのかと思います。もっともっとスピーディーに進めていかないといけな

いのかと思います。

(荒井正美 教育総務課長) ご意見ありがとうございました。上尾市の中でも、内部的には検討を、3年保育の試行ですとか、給食サービスの提供とかいったことを検討していたのですが、財政的な事情等、あるいは行革の視点等があつて、なかなか実現に踏み切れませんでした。岡田委員さんがおっしゃるように、公立幼稚園の良さというのは、平方幼稚園は、市内で唯一の公立幼稚園で、幼小連携の先駆けとして県内でも指定研究校になったりと、モデル的なところもあったのですが、今、幼小連携については、私立幼稚園でも、それぞれ地区の学校と連携をして、しっかりと教育をしておりますし、私立幼稚園もそれぞれの建学精神で特色ある幼児教育を展開しているので、公立の良さ、私立の良さというのが、なかなか、どちらが優れているかというところの評価は難しくなっています。それにもかかわらず、費用的なことをみるとかなりの税金を投入しているというところがあると、税の公平性の負担のことを考えたり、行革の視点を考えると、難しい部分があるということをご理解いただきたいと思います。

(岡田栄一 委員) 課長の言っていることはよくわかるのですが、だからといって、そこで、なくせばよいということとは違うと思います。平方そのものを活性化することを、人が少なくなっても、いろいろなことが関連しているのだから、そのへんをもう少し考えていかないと、どんどん駅近辺に集中するようになってしまいます。私に言わせれば、多少税金がかかっても、平方地区に住みたいと思えるようにすることが、上尾市でも盛り上げるためには必要だと思います。お金の使い方です。

(荒井正美 教育総務課長) 岡田委員さんのご意見は、もつともであると思います。郊外にあつて、人が集まらないからといって、そこを縮小してしまつては、郊外がいつまでたつても発展しないというところもありますし、施設が仮になつたとしても、私立幼稚園の幼児教育を指導できるような機能を何か持つ、たとえば、教育委員会で幼児教育の課題を洗い出して、それを私立幼稚園に還元するような役割を教育委員会が新たに持つというような、枠組みを大きく変えてしまうけれども、一つの方法と思っていますので、そのようなことも含めて、今年度、来年度の早い時期に、施設の耐用年数も近づいているものですから、ある程度の方向性は出して、教育委員さんからご意見をいただきたいと思っています。

(池野和己 教育長) 平方幼稚園のことについては、また教育委員さん方にご意見をお伺いするような機会を設けますので、よろしく願います。他によろしいでしょうか。

～委員全員から「なし」の声～

(池野和己 教育長) ないようですので、これより採決いたします。「議案第49号 上尾市立幼稚園の利用者負担額に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」原案どおり可決することにご異議はございませんか。

～委員全員から「異議なし」の声～

(池野和己 教育長) ご異議がないものと認め、原案のとおり可決いたしました。

日程第5 報告事項

(池野和己 教育長) 続きまして「日程第5 報告事項」でございます。本日は、8件の報告がございますので、よろしくお願いいたします。

(保坂了 教育総務部長) 報告事項のご用意をお願いします。報告事項の1、平成29年上尾市議会9月定例会につきまして、全体概要を関教育総務部次長より、一般質問の内容につきましては両部の部長より説明申し上げます。その後、報告事項の2、3につきましては、長谷川スポーツ振興課長よりご報告申し上げます。

○報告事項1 平成29年上尾市議会9月定例会について

(関孝夫 教育総務部次長) それでは1ページ目、「報告事項1 平成29年上尾市議会9月定例会について」ご報告いたします。会期は、平成29年8月30日から9月20日までの22日間ございました。市長提出議案のうち教育委員会関係の議案についてご報告させていただきます。議案第38号「平成28年度上尾市一般会計歳入歳出決算の認定について」につきましては、決算特別委員会にて閉会中、継続審査ということとなり、12月議会で議決をいただくことになっております。次の議案第44号「平成29年度上尾市一般会計補正予算(第2号)」につきましては、賛成多数で原案が可決されました。これにつきましては、小中学校の就学援助費補助事業の、就学前支給の実施に当たっての事業費予算でございます。続きまして、議案第48号から議案第51号までは、いずれも新図書館複合施設建設に関する「工事請負契約の締結について」でございます。すべてにつきまして、賛成多数で原案が可決されました。議案第48号では建築工事に係る契約を12億8,304万円で千代本興業株式会社と、議案第49号では自動書架・家具工事に係る契約を2億6,827万2,000円で株式会社島村工業上尾支店と、議案第50号では電気設備工事に係る契約を2億3,220万円で栄電業株式会社と、議案第51号は空調換気設備工事に係る契約を3億6,158万4,000円でアサヒ住建株式会社と、それぞれ契約を締結するため、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例に基づき提案したものでございます。次の、議案第55号「財産の取得について」でございますが、賛成多数で原案が可決されました。これは、市民野球場用地として、上尾市大字平方字南780番ほか合計2万1386.56平方メートルを、1億8,932万2,438円で取得するため、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例に基づき提案したものでございます。続いて、議案第62号及び第63号「教育委員会委員の任命について」につきましては、全会一致で原案が同意されました。議案第62号では、9月30日で任期満了となりました甲原裕子前委員の後任として内田みどり委員の任命について、議案第63号では10月24日で任期満了となる細野宏道委員の再任について提案したものでございます。続きまして、市政の対する一般質問につきましては、両部長からご報告申し上げます。

(保坂了 教育総務部長) 恐れ入ります、別冊の「市政に対する一般質問 答弁要旨」をご用意ください。教育総務部関連では、9人から一般質問がありました。1ページをお開きください。橋北議員からは、「現図書館本館の後利用について」ということで、リニューアルの計画内容やスケジュールについて、また、現在実施している市民会議の内容についての質問がありました。再配置計画については、2階に教育センター、1階の一部に240平方メートル程度の図書館分館機能、地下には文化財資料などの倉庫を計画している。スケジュールについては平成31年度に設計、32年度に工事を行い、できる限り早くオープンできるように考えている旨。また、計画の検討に当たってはアンケートや市民会議の意見をできる限り反映していく旨の答弁をいたしました。4ページをお願いいたします。

戸野部議員からは、「子供たちが安心して利用できる公共施設に向けて」ということで、化学物質に関する健康についての調査や対策などの質問があり、教育委員会では年度当初に各小中学校・平方幼稚園における化学物質過敏症の児童生徒の在籍調査を実施しており、対象者がいる場合は個々に応じた対策をとっている。改修工事や日常のメンテナンスにおいても、揮発性有機化学物質の低減を図るよう配慮しており、ワックスや芳香剤などを使用する際は刺激臭などがいないことを確認するとともに、十分な換気を行っていることなどの答弁をしました。5ページをお願いいたします。田中一崇議員からは、「幼児から小中学生の諸問題について」の中で、平方幼稚園の今後についての質問があり、現在、平方幼稚園の在園時は定数100人に対し26名であり、今後の運営の在り方は大きな検討課題である。この在り方を検討する視点として、市内唯一の公立幼稚園としての役割や意義について、今後急速に進む幼児人口の減少における民間と公立幼稚園の役割分担、施設の老朽化に伴う公共施設マネジメントに基づく適正規模などの課題をしっかりと捉え、行政経営の観点からの検討をしていかなければならないことなどの答弁をしました。12ページをお願いいたします。井上議員から「新図書館複合施設の建設について」の中で、大きく3点、現本館の今後の分館計画について、新図書館の自動書架について、新図書館複合施設建設用地の選定過程についての質問があり、現本館に残す分館については、現在の児童書スペース内を想定し、面積は240平方メートル程度で、内容については市民アンケートや市民会議での意見を参考に検討していく旨答弁をしました。自動書架については図書の収蔵能力が格段に高く、本の貸出時間の短縮や蔵書点検の迅速化などのメリットがある旨、また、導入コストなどの答弁を行いました。建設用地については平成25年8月から現在の場所を検討してきたことなどを答弁しました。15ページをお願いいたします。浦和議員からは「安全安心のまちについて」と「シティセールスについて」の質問がありました。安全安心のまちについては、避難所となる校舎・体育館周りのバリアフリー化についての質問があり、多目的トイレやスロープなどの整備を進めているが、校門入口からの動線上には段差などもあり、今後、整備方法について研究していく旨の答弁をしました。新図書館は何をもってシティセールスとするのかについては、複合施設周辺には上平公園や児童館アップーランドなどもあり、子育て環境に恵まれていて、これらの施設と図書館との相乗効果により、子育て世代に魅力ある環境を創出できる。また、他市では類のない読書パスポートの配布に対する評価や読み聞かせのまち上尾の実現に向け、ボランティアの育成についても大きな成果をあげており、子供の読書活動に力を入れていることなど他市の図書館には負けない様々な事業展開ができることなどを答弁しました。17ページをお願いいたします。糟谷議員からは「ゲリラ豪雨、大規模地震に備えた対策を」、「新図書館建設をめぐる諸問題について」の2項目の質問をいただきました。文科省調査において災害時に断水でも使えるトイレや停電時の電力確保の備えが埼玉県では65パーセントだったのに対し、上尾市はどうかの問いに対し、上尾市においては簡易型や携帯型のトイレを全校に設置しているため100パーセントであり、また、電力についても全校に発電機を設置しているため100パーセントである旨の答弁をしました。また、新図書館建設に関しては、株式会社クライズへの家屋の移転補償についての考え方など損失補償基準に則って算出したものであり、適正な価格である旨や交渉経過についての答弁を行いました。20ページをお願いいたします。平田議員からは、「学びを保障する社会教育・公民館を」という質問で、現在の公民館6館では不十分ということで、瓦葺中学校区や上尾中学校区に公民館の設置を求めるものでしたが、瓦葺地区には図書館瓦葺分館の集会室や瓦葺ふれあい広場の多目的広場と集会室兼体育館、原市集会所など生涯学習を支える場があり、また、上尾中学校区には上尾公民館や文化センターがあり、これらの施設を活用していただきたいと考えており、新たな公民館を建設する予定はないことについて答弁を行いました。21ページ下段をお願いいたします。池田議員からは次ページの「危険な通学路と学校施設の改善を」の中で22ページの三つ目と四つ目の特別教室、特に音楽室へのエアコンの設置についての要

望があり、市では吹奏楽部の活動状況や近隣への騒音対策として中学校の音楽室にエアコンを先行して設置してきたが、小学校の音楽室や小中学校の特別教室への設置については、学校施設整備全体の中で検討を進めていく旨の答弁をしました。23ページ、秋山かほる議員からは、「図書館本館移転を巡る問題について」の中で、本館移転に関し図書館協議会での協議があったかなどの質問があり、市が所有する用地は少なく、用地選定をお諮りするような候補地がなかった、そもそも、図書館協議会は図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとあり、設置と運営は別で、本館の移転については本来諮問すべき事案とはならないものであること、また、現本館のリニューアル後の図書館分館機能は市民アンケートのご意見を参考に計画し、自習室やくつろぎの場、会議室などの配置も可能性はある旨の答弁をしました。教育総務部関連は以上でございます。

(今泉達也 学校教育部長) 学校教育部に関係する一般質問でございますが、8名の議員さんからいただいております。恐れ入りますが、「答弁要旨」の1ページをお願いいたします。まず、橋北議員からは、2ページの下段、「非核平和について」の中で「平和資料館などの資料を利用した取組の内容」についてご質問をいただきました。埼玉ピースミュージアムから実物の資料をお借りしたり、ボランティア団体の方から戦争に関する実話を聞いたりするなどの学習を行っている学校がある、との答弁をいたしました。次に、3ページをお願いいたします。星野議員からは、「学校にAEDの複数設置を」についてご質問をいただきました。幼稚園、各小・中学校の設置状況や運動会やプールの授業、土・日の学校開放時の対応などについて答弁をいたしました。また、昨年度、瓦葺中学校において体育の授業中に使用した事例や、AEDの複数台設置は救命救急体制の強化にとっても有効であるとの認識を持っていることなどについて、答弁いたしました。また、4ページでございますが、「中・高校生議会の開催」の中で「小・中学校の主権者教育」についてご質問をいただきました。小・中学校で行われている主権者教育の現状とともに、今後、各中学校の主権者意識の高揚に向けた指導の充実に努める旨の答弁をいたしました。次に、5ページをお願いいたします。田中一崇議員からは、「幼児から小中学生の諸問題」の中で「小・中学生の通学及び休日の自転車」についてご質問をいただきました。6ページになりますが、自転車通学を認めている中学校数、自転車利用の規定、学校における指導の状況、放課後や休日利用に関する教育委員会の認識などについて、また、田中一崇議員さんご指摘のとおり、休日の利用については家庭教育で保護者の責任のもと指導いただきたい旨の答弁をいたしました。また、7ページの上段でございますが、キッズウイークに関する、市教委の見解についてご質問をいただきました。今後、国や県などの動向を注視し研究する旨の答弁をいたしました。次に同ページ、鈴木議員からは、「学区編成に伴う諸問題」についてご質問をいただきました。通学区の再編の目的や基準、変更する際に苦勞する点、あるいは、市内の学区調整区域の場所などについて答弁いたしました。次に、8ページ、秋山もえ議員からは、「障害者差別解消法にもとづく対策を推進し手話言語条例の制定を」の中で「小・中学校における手話についての学習状況」についてご質問をいただきました。聴覚障害の方を講師として招いた学校があることなどを答弁いたしました。次に、「義務教育にかかる保護者負担の軽減を」についてご質問をいただきました。各小・中学校の教材費の学校ごとの負担状況や学校ごとに教材費の額が異なる理由などについて答弁をいたしました。また、保護者が負担する教材費等に関しては、教育効果を十分に考え、保護者の大きな負担とならないよう、使用する教材を十分精査すること、学校間の格差についてはそれをもって直ちに「不適切」として「全校同額にするように」ということは考えていないことなどを教育長が答弁されました。さらに、9ページでございますが、給食費の無償化については、現在考えていないことなどを市長が答弁されました。次に、10ページをお願いいたします。町田議員から、「特色ある教育施策」についてご質問をいただきました。文部科学省や県教育委員会、市教育委員会の研究委嘱制度や、研究開発学校制

度の目的などについて答弁するとともに、今後も各学校の主体性、独自性を保ちつつ魅力ある学校づくりを推進する旨の答弁をいたしました。また、11ページでございますが、東中学校の「グローバル・シティズンシップ科」の取組概要や3年間のこれまでの研究成果などについてもご質問をいただきました。その中で、率直な感想として、上尾の子供たちに対して市民性の育成は、より広い世界で活躍するために今後一層必要となり、たくましく生き抜く資質、能力の育成を目指す意味で大変価値のある実践研究であると捉えている旨の答弁を、教育長がされました。次に、少しめくっていただき、15ページをお願いいたします。浦和議員からは、「シティセールス」についての中で「小・中学校の給食調理室を使用して、被災者に食事をつくることはできないか」というご質問をいただきました。避難者へ食事などを供給することの必要性は十分認識しているが、学校はできる限り速やかに授業、並びに給食の再開に向けて準備する蓋然性を有していることから一義的には難しい旨の答弁をいたしました。次に、また、少しめくっていただき、21ページをお願いいたします。池田議員からは、「非核都市宣言都市としての平和行政のさらなる発展へ」の中で「学校教育における平和教育の取組」についてご質問をいただきました。教科での取組とともに、生徒会が中心となって広島、長崎に千羽鶴を贈ったり、校長自ら児童生徒に講話をしたりするなどの学校があることを答弁いたしました。また、22ページでございますが、「危険な通学路と学校施設の改善を」の中で「通学路安全対策事業」などについてご質問をいただきました。昨年度は、交通防犯課等と協議して3件の改善を行ったこと、今後も、上尾市PTA連合会から提出された要望箇所について3課で協議の上、通学路の改善を実施する旨の答弁をいたしました。学校教育部からは、以上でございます。

○報告事項2 第59回上尾市民体育祭の結果について

（長谷川浩二 スポーツ振興課長）報告事項2ページをお願いいたします。「報告事項2 第59回上尾市民体育祭の結果について」ご報告申し上げます。平成29年10月8日に上尾運動公園陸上競技場において第59回上尾市民体育祭を開催いたしました。当日は、種目で言いますと、支部対抗種目が5種目、加盟団体種目が1種目、一般種目が9種目の15種目を行いました。参加の延べ人数ですが、約8,000人の方が選手や応援などで参加しました。結果でございますが、支部対抗競技では、総合優勝が上尾支部、第2位が上平支部、第3位が大石支部でございました。また、1,400メートルリレーにおきましては、優勝が上尾支部、第2位が上平支部、第3位が大石支部で、応援賞につきましては、優秀賞が原市支部、さわやか賞が上尾支部でございました。また、当日、体育協会の体育賞の表彰を行いました。受賞者総数が260人でございまして、内訳といたしましては、小学校体育優秀児童賞が22人、優秀選手賞が110人の14団体、体育功労賞が29人表彰を受けました。なお、教育委員様には、開会式にご参列いただき、ありがとうございました。

○報告事項3 第30回2017上尾シティマラソンの参加申込状況について

（長谷川浩二 スポーツ振興課長）続きまして、3ページをお願いします。「報告事項3 第30回記念2017上尾シティマラソンの参加申込状況について」ご報告いたします。11月19日に開催いたします、上尾シティマラソンの参加申込状況でございますが、10月3日現在となりますが、参加申込者数8,820人、内訳でございますが、ハーフの部が5,943人、そのうち、招待大学23大学、487人、招待高校が4校の35人です。5キロの部につきましては、1,679人、うち、中学生男子は194人、3キロの部は1,198人、うち、小学生男子が640人、小学生女子が437人、中学生女子が121人でございます。さらに、小学生の内訳ですが、小学生男子5年生が336人、6年生が304人、小学生女子の5年生が223人、6年生が214人でございます。招待ランナーにつきましては、今年も川内祐輝選手にハーフの部走っていただく予定になっています。ま

た、ゲストラナーの谷川真理選手には、3キロと5キロの部を走っていただくことになっております。また、上尾市出身の岡田久美子さんには、ランナーの見送り等をしていただく予定でございます。以上報告とさせていただきます。

(今泉達也 学校教育部長) 報告事項4から報告事項8の五つの事項につきましては、瀧沢副参事兼指導課長より報告申し上げます。

○報告事項4 平成29年度新人体育大会兼県民総合体育大会上尾市予選会の結果について

(瀧沢葉子 指導課長) 4ページ「報告事項4 平成29年度新人体育大会兼県民総合体育大会上尾市予選会の結果について」でございます。5ページは、市の新人体育大会・個人戦の結果でございます。卓球は、3位を除き、県大会への出場となっております。6ページ、7ページは、陸上競技の結果でございます。順位に○印のある選手が、県大会に出場いたしました。8ページは、水泳競技の結果でございます。次に、9ページは、新人体育大会・団体戦の結果でございます。県大会の出場校は、表の一番右側に掲載しております。

○報告事項5 平成29年度第53回上尾市小学校陸上競技大会の結果について

(瀧沢葉子 指導課長) 10ページ「報告事項5 平成29年度第53回上尾市小学校陸上競技大会の結果について」でございます。別紙、配布いたしました資料の学校別得点表をご覧ください。結果は、女子は、1位原市小学校、2位上平小学校、3位大石小学校、男子は、1位に富士見小学校、2位上平小学校、3位大石小学校となっております。総合では、1位上平小学校、2位大石小学校、3位原市小学校でございました。その他の学校の成績につきましては、ご覧のとおりでございます。

○報告事項6 「いじめ根絶」小学生の誓いについて

(瀧沢葉子 指導課長) 続きまして、11ページ「報告事項6 上尾市「いじめ根絶」小学生の誓いについて」でございます。12ページをご覧ください。上尾市では、いじめを生まない安心できる学校をつくるため、平成19年に「いじめをなくす宣言」、平成25年「いじめ根絶」中学生宣言を作成しておりますが、今年度、最初の宣言作成から10年を経たことを機に、新たに、市内22校の小学校の代表児童による小学生サミットを開催し、各校で行われているいじめを生まない取組を持ち寄り、話し合いによって「小学生の誓い」を作成いたしました。小学生サミットでは、児童が活発に意見交換を行い、小学生の思いがこもった言葉で表現された誓いとなりました。今後は、この宣言を各学校で児童会を中心に広めるほか、家庭・地域へも発信してまいります。また、11月7日に行われる「青少年健全育成地域の集い」や、12月2日に行われる「あげおヒューマンライツミーティング」、上尾市のホームページでも、地域の皆様にも発表してまいります。

○報告事項7 平成29年9月 上尾市小・中学校いじめに関する状況調査結果について

(瀧沢葉子 指導課長) 続きまして、13ページ「報告事項7 平成29年9月 上尾市小・中学校いじめに関する状況調査結果について」でございます。14ページをご覧ください。9月の認知件数は、小学校では、新規認知が3件、継続見守り12件、中学校は、新規認知3件、継続見守り8件となっております。

○報告事項8 全国学力・学習状況調査に関する結果について

(瀧沢葉子 指導課長) 続きまして、15ページ「報告事項8 平成29年度全国学力・学習状況調査に関する結果について」でございます。16ページをご覧ください。表は、小学校6年生・中学校3年生で実施しました「全国学力・学習状況調査」の平均正答率となっております。◎は、その平均正答率が、全国・県ともに上回っている場合、白△は、県を上回っていますが、全国を下回った場合、黒▲は、全国・県ともに下回っている場合を表しております。結果をみますと、小学校国語Aを除き、小・中学校ともに国語、算数・数学ともに学力向上が課題となっております。今年度は、各学校の学力向上プランを見直したほか、学校訪問を授業改善の機会となるように工夫するなどしておりますが、今後「分析」を進め、学力向上に向けて、さらに研修体制や具体的な学力向上策を工夫してまいります。指導課からの報告事項は、以上でございます。

(今泉達也 学校教育部長) 報告は以上でございます。よろしくお願いいたします。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。ただ今報告8件につきまして説明をいただきました。ご質問、ご意見等ありましたら、よろしくお願いいたします。

(中野住衣 委員) 先ほど、9月定例会の一般質問の答弁要旨を説明いただきましたが、その中で、小学生の自転車利用についてお聞きします。私も時間にゆとりがありますので、児童の登下校の様子や休日の自転車を使っての遊びの様子などがとても目につきます。とても危険です。お話の中に、「放課後や休日には学校や学年の実情に応じた決まりに沿って自転車を利用している」と書かれていますが、現在、小学生の自転車を利用する場合の決まりというのは、低・中・高でどのようなものがあるのですか。

(松澤義章 学校保健課長) 小学校におきましては、各学校ごとに、自転車の利用に関する校内規程ということで、その地域性、児童数等に応じた決まりを設けていただいておりますが、詳細については、把握しておりません。お時間をいただければ、確認させていただいて、後ほど報告させていただきたいと思っております。

(中野住衣 委員) たいへん危険な場面もたくさん見ます。私の記憶によりますと、低学年は自宅の周りとか、中学年が学区とか、そういうラインが上尾市にはあったような記憶があったので、もし教えていただけるのであれば、後日よろしくお願いいたします。

(池野和己 教育長) それでは、後ほど報告させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。他にありますか。

(内田みどり 委員) 先ほどの一般質問の答弁の中で、PTA連合から出させていただいている危険個所の把握ということで、毎年毎年、学校から出させていただいているものがあったということでご説明いただきましたが、危険個所の通学です。私も毎年のように出していたのですが、10年たっても一向に変わらないということが多々ありまして、この進み具合というのはどういうものなのでしょうか。

(松澤義章 学校保健課長) 毎年ご要望いただいております。件数につきましては、平成29年度につきまして約160件ほどいただいております。毎年同じような数字でいただいておりますが、その中

で全件確認させていただいて緊急性、危険性が高いものを優先して順次整備をさせていただいている状況です。予算の問題もありまして、いっぺんにというわけにはいきませんので、そのへんの順位付けをさせていただいて、毎年実施をさせていただいているところでございます。

(内田みどり 委員) そうなってくると、順位が遅い地域は、さほど危険がないという判断になるのでしょうか。

(松澤義章 学校保健課長) 判断するのは難しいところでございますが、年々地域の状況や道路の状況も変わりますので、毎年度、毎年度、判断させていただいて、その中で危険性の高いもの、緊急性のあるものと判断をさせていただいて、順次、上位のものから始めさせていただいております。

(内田みどり 委員) たとえば、判断をしていただくのに、毎年担当者が替わって出させていただいていますが、返答みたいなもの言っただけならば、検討の余地があったりするのですが、そういった返答みたいなものはないのでしょうか。

(松澤義章 学校保健課長) 市の広報広聴課で一括して連合会様からの申請を受けておりまして、同課でそれについての回答をさせていただいていると聞いております。

(内田みどり 委員) はい。わかりました。

(細野宏道 教育長職務代理者) 議会の一般質問に関することで1点伺わせていただきます。先ほど、今泉部長から答弁の説明をいただいた、東中学校のグローバル・シティズンシップ科の研究発表についてです。以前、研究発表ということで委嘱研究発表会に伺わせていただきました。このグローバル・シティズンというのを同校が委嘱を受けたというのは、私はたいへんすばらしいと思って見ておりました。教育長の答弁の中でも、「上尾市をいかにプロデュースしていくかということを考えさせるのにたいへん価値のある実践研究である」と答弁されておりました。ただし、これが来年度で終わるわけですが、今後、このような研究を上尾市が持ってくることに、どうお考えでしょうか。実は、私としても、ぜひやっていただきたいと思っているのですが、見解を伺います。

(瀧沢葉子 指導課長) 内容につきましては、たいへん意義があるものと受け取っています。これにつきましては、市内の小・中学校の教員等も参観し、その実情に応じて、教材を活かしていきたいという形で活動されていくというふうに考えております。

(細野宏道 教育長職務代理者) 上尾市というのは、市立高校がありません。実は、私は上尾市に市立高校が欲しいと思っています。というのは、中高一貫などで、この上尾市をいかにプロデュースしていくかということ子どもたちに学んでいただくということは、今後、このような社会、経済、それからカオスの時代の中で、シンクグローバル、アクトローカルということは、たいへん重要だと思っています。いかに世界を考えるのですが、その中で上尾市として役に立つことをどう行動していくかということを考える中で、公教育の役割という意味では、グローバル・シティズンシップ教育というのは、たいへん意義のあることだと思っています。ただし、小学校・中学校の読み書きそろばんというベースを教えるという底辺は崩してはいけないと思いますが、その上に則って、上尾市を、教育長の「上尾市をいかにプロデュースしていくか」というのは、うまいこと言ったなと思っていますが、ぜ

ひ、この委嘱研究を私は続けていただきたいと思いますので、この点に関して、要望させていただきます。「今後研究してまいりたい」とありますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(岡田栄一 委員) 秋山もえ議員の一般質問の中で保護者の負担ということがありましたが、アルバムの値段が小学校の場合1万6,895円、高いものは1万8,000円もするというのは、こういうものにするというのは、学校側とPTA、保護者と協議してこの値段にしたのでしょうか。毎年こういう協議はやっているのでしょうか。それとも、「これでやります」と学校側で決めてそのようにやっているのでしょうか。そのへんの決め方はどうなっているのでしょうか。

(瀧沢葉子 指導課長) 特に、協議して決めている学校はないとは思ひますが、これは個人の希望で申し込んで購入することになっています。各校で負担差があるのは、児童数の規模もあります。ただし、PTA等には、こういう値段でやっている则会計も示しておりますし、値段につきまして高くなっているところにつきましては、なるべく抑えたいと学校も努力しているところではございます。

(岡田栄一 委員) 各学校で教材費など仕入れるときに、業者との交渉もあるのだとは思ひますが、私たちも、仕入れのとき、業者によって値段が違うということはあるものです。その中で、私たちも、長年のおつきあいで多少高くても仕方がないということもありますが、値段の検討は必要です。その校長先生がもう少し検討して、変わってくることもあると思ひます。教材費が大幅に変わってくるといふこともあると思ひます。今、通信販売、カタログ販売で、同じ物でもすごく安く買えます。おつきあいもあるし、そのへんをうまく割り当てる検討をした方がより経費的に抑えられて、保護者の負担を下げられるように思ひますが、そういう努力はしているのでしょうか。

(瀧沢葉子 指導課長) 各学校によって違ひますが、どの学校でも、見積り等を取っています。今は、今まで取引をしていた業者ということではなくて、見積りを取って見直しをしている学校が多数でございます。

(岡田栄一 委員) いつも行く文房具屋さんなど、学校指定として学校に納めている業者もあると思ひますが、そのへんは商売ですから、業者も学校という指定があれば、困らないというところがあるかもしれませんが、そのへんは、お互いに、もう少し協議していただくよう、よろしくお願ひします。

(細野宏道 教育長職務代理者) 先ほど言い忘れましたが、グローバル・シティズンシップで、去年、子どもたちにアンケートを取ったら、「社会を変えられる」というものが63.9パーセントになりました。これが、ポイントです。子どもたちがこうなるという志を持つことが、これになるために勉強しよう、これをするために何かをしようと、必ず続きますから、このグローバル・シティズンシップの研究というのは大変よいと思ひますので、よろしくお願ひします。続いて、報告事項8の学力調査、報告事項の16ページに記載があつて、毎年この時期に出てくるのですが、実はお願ひをして過去5年間の調査の結果の説明をこの前にいただきました。算数・数学がずっと、下がったままです。毎年、同じような答弁をいただきますが、これだけ下がっているというのはいふ何か要因があります。数字で出てくることといふのは、数字はうそをつきませんので、デジタルですのでアナログでない結果がここに出ているといふことは、真摯に受けとめなければなりません。本当に何が問題なのかといふことを、教育委員会もそうです、現場の学校の先生方で上尾の子どもたちは、算数・数学でこの部分ができないといふことを業者の分析もありますので、そのへんを上げないと、数学が1年だけ△があ

りますが、ずっと5年▲ですので、これはぜひお願いしたいと思います。これについては、いかがでしょうか。

(瀧沢葉子 指導課長) ご指摘のとおりで、今、小中学校を学校訪問で回りますと、学校の様子がたいへん落ち着いていて、学習にも集中しています。また、教員もたいへん熱心に指導している。けれど、結果が出ないということはどういうことなのかということについては、真摯に検討していかなければならないと考えております。特に、全国学力調査問題を先生方に解いてくださいということ、まず、この問題を見てくださいますということをやっていますが、なかなか優先順位が付けられない、そういうところに至っていないという課題も見えています。また、原因だけをみているのではなく、どこのどういうところに課題があるのかという問題に根差したことをきちんと検証し、それに対応できる教育委員会としても研修を工夫していかなければいけないと考えておりますし、学校としても一部、小学6年生、中学2年生が受けるということで担当の学年だけがみるということだけでなく、全校の問題として具体的な方策を考えるとところにあると思っております。今回、学力向上プランを各学校で作成しておりますが、これについても具体策が出るように、また、新しい教育の在り方など、調査だけではなく、授業の在り方、学び方についてもみておりますので、そういうことも総合的に考えながら、打開策ができるように知恵を結集して対応してまいりたいと考えております。

(今泉達也 学校教育部長) 学力を高めるのは、もちろん、家庭教育にお願いする部分もありますが、何と言っても授業が変わらないと、子どもたちも変わらないと思っております。画一的な指導や一斉授業も大事なことはもちろんですが、算数・数学については、歴然として習熟の程度に差があるということが事実ありますので、授業の中でどれだけ細分化できるか課題もありますが、習熟の程度というか、できる子はもっと伸ばす、苦手な児童には繰り返し個別に基礎的基本的なものを身に付けさせるといったような、いつも40人なら40人相手にしてどうだというのも一つですが、教室の中を程度に分けて、それぞれの子どもに応じた教育をもっともっと実施する必要があるのではないかと思っています。先生たちも、もちろんその点では苦慮しています。この結果をみれば、そういう点は欠かせないのかと捉えています。

(細野宏道 教育長職務代理者) もちろん29年度の点検評価の再質問をさせていただいて、上尾の学力調査を12月にさせていただいたり、習熟度別の授業をさせていただいたり、ICTを活用させていただいたり、たいへん苦勞されていることは重々わかっていますが、口を酸っぱくして言わないと、1日ではなかなかうまくいかないの、たいへんだということは理解しておりますから、続けていただければ助かります。よろしく申し上げます。

(中野住衣 委員) 新しい試みということでもお聞かせいただいたのですが、先ほど瀧沢課長もお話しされたように、PDCAのサイクルというのはCAが十分でないとなかなか成果が出ないと思っております。そのところを新しいサイクルの中で、何か新しい局面、成果が出てくることを期待しています。学力に関してあと二つ質問があります。今年度、教育委員対象の研修会に出席した際、自分は「学力向上」の分科会に参加させていただいたのですが、県教委の説明によれば、埼玉県全体の特徴で、中1の学力の伸びが見られないのが課題だと伺いました。6年生までは順調に伸びていくのだそうですが、中1で落ちてしまうそうです。ここ数年の全国学テの本市の結果を見ても中学生の数学は課題であり、中1でわからなくなり、つまづいてしまうと、そのまま中2、中3とってしまう懸念があり、取り返しがつかないのではと思われました。上尾市としては、中1の学力をどうとらえている

かということが1点目の質問です。また、研修会の中で、学力向上の取組について成果を上げた自治体の発表を伺ったのですが、埼玉の子どもは家庭で勉強をしないという調査結果が出ている中、成果を上げている地域は家庭の役割を明確にして、連携した取組が実践されているというお話です。家庭での役割をどのように考えますか。これが2点目です。以上2点について教えてください。

(瀧沢葉子 指導課長) まず、PDCAからCAPDということになりましたが、先ほども申し上げた学力向上プランのところで振替えを利用する欄を作ったり、具体的に年度当初に立ててしまったり、それでもう次はみないということではなく、そういう形式を作ることによって、何度も意識されるように、検証するよというよな、形式的なものにつきましては、工夫、改善をしたところがございます。また、本当に授業が一番で学校訪問をしてということで、学校訪問をして1時間に一人の指導主事がきちっと見るよなシステムを作っているのは、たいへん工夫してきているとみております。今年度からは、その授業の後に管理職の先生方にその結果について個別面談を行いまして、その結果を残すということもしております。それによって、授業の改善を図り、研修を各学校で工夫する必要があるということになった場合は、再度、指導主事が訪問して、研修を行うという、1回きりの学校訪問では終わらず、それを基にした授業改善への働きかけもしているところであります。授業に何か課題があるのかと言われる点につきましては、教科の指導力については、私見でございますが、学校課題研究を中心に進めている授業力向上ではありますが、今、課題が大きくなってきて、若手教員も増えてきているということで、課題研究を中心としただけの研修をしているだけでは、課題に対応しきれない。もっとバランスをとって、基礎的な指導力を向上させる研修や生徒指導についてもバランスをとった研修計画を立てていただかなければ対応できないのではないかと考えております。それにつきましては、各校で、校長会でも申し上げましたし、各校で課題研究だけ研修するというのではなく、バランスよく研修を図っていただいている学校が複数校出ていることもございまして、そういう学校については、成果がみられるというふうに感じております。数値的には、まだ捉えておりませんが、そのように考えております。

(中野住衣 委員) 新しい試みということでもお聞かせいただいたのですが、先ほど瀧沢課長もお話したように、PDCAのサイクルというのは、私はCAが十分でなければ、なかなか成果が出ないと思っています。そこのところを新しいサイクルの中で何か新しい局面、良さが出てくることを期待しています。学力に関してあと二つ質問があります。教育委員の研修会の際に、学力向上について私が出席したときに、県全体の特徴で、中1の学力の伸びが見られないのが課題だというお話を伺いました。6年生までは順調に伸びていくのが、中1になって落ちてということで、そうしたときに、中学校の数学はずっとここ何年か結果としては厳しい状況があるというときに、中1で、わからない、つまずいてしまうと、そのまま中2、中3と行ってしまふよな懸念があると思いました。上尾市としては、中学校1年生の学力というものをどう捉えているかということが一つ目の質問です。それから、研修の中で、埼玉県の中で成果を挙げた地域の発表などもあります。埼玉の子どもは家庭で勉強をしないという調査結果があるとよく言われます。学力向上に取り組んで成果を挙げている自治体の話を聞くと、家庭の役割を明確にして連携した取組が実践されているという答えが必ず返ってきます。それについては、学力との関係でどう考えているのでしょうか。その2点についてお聞かせください。

(瀧沢葉子 指導課長) 中1の学力が見られないということについては、もちろん、小学校と中学校の教え方の違い等もこれから小中連携で具体的に行っていくかなければならないと考えております。まだ、具体化はしていませんが、中学校区を中心とした具体的な研修の在り方を提案して、ということも

まだ腹案ではございますが、考えております。もちろん中1の学力に課題がある中では、小学校の学力に課題があるということで、よくよく見てまいりますと、小学校中学年あたりからのつまずきに大きな原因があるのかということも、はっきりしたデータではないですが、ありますので、そのあたりから一つ一つどうするか、何を行うのかということについては検討を進めてまいりたいと考えております。また、2点目の埼玉の子どもが家庭ではということで、家庭の役割をということですが、放課後の補習授業なども他市町村のところを見ますと、かなり工夫をしているところがみられてきて、学力向上については、ずいぶん言われてきておりますので、そのへんの差異があるのかというようなことは、家庭教育への働きかけは行っているところではあります。それでは、学校の中でどのようなことができるのか、たとえば、ある学校では、補習の時間を設けたときに、家庭や地域から個別指導の方の協力を得てやっているところについては成果を得ているというような話も聞いていますので、いかに家庭教育を巻き込んでいくかということについても今後検討してまいりたいと思っております。

(中野住衣 委員) 現在のところの実績ですとか、新しい方策ですとか、たくさんお聞かせいただきました。ありがとうございました。

(池野和己 教育長) 私からも学力のことですが、先ほど細野委員さんからあったとおり、数値、データで出ているものを並べますので、たとえば、47都道府県を並べるときも、横軸に北海道から順番に並べて縦軸にとるわけです。その縦軸にとるとり方によって当然ですけれど、数字的に差があるわけですから、当然、1番になる県と最後になってしまう県が出るわけです。それが、一つの数値で出たときの明らかに出てくる場所ですが、その数値の差というものを埼玉県教育委員会はどうか捉えているかと言いますと、正直な話、ここに出ているコンマいくつとかという数値がどのくらいの大きさがあるかということについては、現在、埼玉県教育委員会は、あくまでも、全国学力・学習状況調査は国として今のわが国の子どもたちの学力がどのところにあるかということのみをみているだけと捉えています。ですから、毎年度、母集団の違う小学校6年生と中学3年生、毎年度違うわけですから、当然、今回29年度、28年度、5年間お示しさせていただきましたが、全部母集団が違うわけです。ですから、29年度の上尾市の中学3年生と昨年度の3年生と比較した数値なのです。ですから、この二つの数値をいくら比較しても、そこから得られるものは、あくまでもその母集団の違いが出ているだけなのであって、そこに埼玉県教育委員会はかなり重点化してしまっていて、上尾市がやっている学力テストと同じなのですが、悉皆でやって伸びしろをみようとして埼玉県教育委員会は動いております。埼玉県教育委員会は、いつも全国平均を下回っているということを県議会で議員さんからずいぶん指摘されています。ところが実際には、なかなか難しい答弁になるのですが、数字の違いというのはここに出てくる場所なので、ここは冷静にみていかないと、単純に1番の県と最後の県があるからといって、最後の県に多く課題があるのかということ、みな状況が違うということです。その中で少し見えるのが、全国でいつもトップにいる県ですけれど、他にない特色としましては、ご存じのとおり秋田県とか、福井県とか、おしなべて、県公立高校の受験が中学校の卒業式より後の県です。ですから、中学浪人が普通に出ている所です。ところが、埼玉県の場合は、とにかく親切、とにかく大事、大事にしてくれるものから、かなり学力が低くても、みな県公立高校に入っていく。こういう県です。そのように、都道府県によってかなり状況が違う。ですから、たとえば、少し近くでも福島県より北の東北地方にいきますと、卒業式の終わった後に県公立高校の合格発表ですので、浪人をすると、この浪人をしてしまうことを何とか避けたいということになると、子どもたちの必死さも違ったり、そういう多くの状況が違うのです。そのことは、全国学力・学習状況調査をみるときにはいつも押さえ

ておいていただけたらありがたいと思います。それから、2点目ですけど、今回出していませんが、実際に子どもたちが答えた問題をみてみますと、埼玉県の子どもたちは、全国学力・学習状況調査は非常に答えにくい、埼玉県の中で行われている県公立高校の入試の問題とはかなりかけ離れてしまっていて、たとえば、埼玉県の県公立高校はいつもそうなのですが、だいたい最初からだんだん難易度が高くなっていきます。子どもたちが答えやすいように作ってくださっているという面があります。たいへん親切です。この全国学力・学習状況調査は、いろいろぐちゃぐちゃに入っていますから、はじめの問題で引っかかってしまいますと、答えないうちに時間がなくなってしまう。また、Aの方が本来は基本的な問題が出るわけですが、こちらの質問の仕方を読んでも、どちらかというとBみたいな応用的な質問の仕方がされています。答えにくい。いろいろな特色がそれぞれにありなので、そのへんもトータルで考えた上で、みていく必要があると思いました。埼玉県の学力・学習状況調査は、現在上尾市と同じで悉皆でやって伸びしろをみていくという方向なので、本来的には伸びしろをみてもらうというのは、非常に学校の努力がみてとれます。非常に重要なものをいただけるのかと思います。特に、算数・数学について全国でいつも成績の課題が国語以上に大きいのは、重く受け止めなければいけないのですが、問題の分析を教育委員会は教育委員会、学校は学校だけでやってのでは、私はらちが明かないと思います。ですから各学校から悉皆で教員が出てきてもらって、教育委員会も指導主事が入って分析も含めてやって、対策を練る必要があるのかと思っております。今後検討して、何か手を打っていかねばならないと思いますので、今後とも見届けていただけてご指導いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

(岡田栄一 委員) 埼玉県内の私立小・中学校は受けていないのでしょうか。

(池野和己 教育長) 参加しているところと、していないところがあると思います。全部が出ているかまではわからないのですが、指導課は知っていますか。

(瀧沢葉子 指導課長) 確認したいと思います。

(内田みどり 委員) 息子の行った高校で、学校の雰囲気で勉強したいというような雰囲気を作る学校があったのですが、たとえば、職員室の前にイスとテーブルがあって、いつでもそこで質問ができるですとか、放課後ここの教室は勉強できる部屋ですとか、何かそういった取組を小学校や中学校でも、特に3年生になると部活も終わりますから、残りの1時間を勉強できる部屋ですとか、そういうところに呼び込むことによってお互いに刺激し合いながら学力が上がることもあるのではないのでしょうか。

(池野和己 教育長) 今、上尾でも、そのへんは校長に話しておりまして、特に中学校については、部活動が終わった後の3年生の勉強を放課後等にみられる、いわゆる補習を進めていきたいと。私は、小学校でもやるべきだと思うのですが、埼玉県全体がそうなのか、特に上尾市なども、今は6年生までみな集団下校なのです。結局は、家庭にお願いするしかないのですが、本来でしたら、少し学校にとどめておいて、教職員の意欲でもって、少しそういうことがやればよいと思ってもいます。それについては校長とも相談しながら進めるしかないのですが、家庭学習が大事だからといって家庭だけに任せておくということではなくて、進めてまいりたいと思います。また、eラーニングというソフトがあるのですが、それを使って、実際にやっていこうということで、今取り組んでいるところです。また後で、進捗状況を報告させていただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

(池野和己 教育長) 他のことでも結構ですので、何か質問はありますか。

～委員全員から「なし」の声～

日程第6 今後の日程報告

(池野和己 教育長) それでは、報告についての質問、意見についてはこれで終了したいと思います。たいへんありがとうございました。それでは、今後の日程報告をお願いいたします。

(荒井正美 教育総務課長) それでは、11月の日程をご案内させていただきます。教育委員の当面の日程表をご覧ください。まず、委嘱研究発表でございます。9月の定例会でもご報告させていただきましたが、来週から順次、市内11校の小中学校におきまして委嘱研究発表会が開催される予定でございます。11月につきましては、日程表のとおり4校において開催される予定で、11月8日が瓦葺小学校、15日が南中学校、20日が太平中学校、22日が大石南小学校で、それぞれ行われる予定でございます。その他行事関係では、生涯学習に関する分野では、上尾市文化芸術祭が11月3日から5日までの3日間、上尾市コミュニティセンターで開催されます。また、11月12日には、上尾市民音楽祭が上尾市文化センター等で開催予定となっております。スポーツ振興分野では、本日の報告事項にもありましたが、上尾シティマラソンが11月19日に開催されます。また、学校関係では、16日に上尾市小中学校音楽会が上尾市文化センターで開催されます。最後に、11月の教育委員会定例会でございますが、11月22日水曜日の午前9時30分から教育委員室で開催させていただきます。なお、この日は、定例会終了後に、午前11時から上尾市PTA連合会主催の教育懇談会が同じ教育委員室を会場に開催されますので、ご出席をお願いします。日程は、以上でございます。

(池野和己 教育長) ありがとうございました。そのほか、皆様から意見、ご要望がありましたら、お願いいたします。

～委員全員から「なし」の声～

日程第7 閉会の宣告

(池野和己 教育長) ありがとうございました。以上で、予定されておりました本日の日程はすべて終了いたしました。これもちまして、上尾市教育委員会10月定例会を閉会いたします。たいへんお疲れ様でした。

平成 年 月 日 署名委員